

目的 前回、保育園に乳幼児を依頼している母親に対して行った、離乳に関する認識についての調査の結果、母親は、保育園の離乳のすすめ方に信頼を寄せ、離乳に関する問題解決の相談者として、保母をオーにあげており、離乳の過程で、保育園の果物役割の大きいことを確認したので今回は、保育園が離乳をどのようにすすめているか、その実態を知るため、(1)離乳の時期、(2)離乳食について、(3)保母と母親との連絡の方法、(4)集団給食の中で、離乳をすすめる際問題となる事柄について、調査を行った。

方法 福岡市の東部、中央部、南部及び西部に設置されている、市立、私立の保育園の中から、25園にアンケート用紙を配布し、乳児担当の保母に記入してもらい、調査を行った。

結果 乳児の受託月令は生後30日より5ヶ月迄に受託を開始している園が23園で、残りの保育園が初期よりの離乳を行っている。集団給食の際、離乳実施上の問題としてあげているのは(1)月令の異なる乳児の離乳食に対し個人差への考慮がむづかしい。(2)離乳食を子える際、こゝで与え、語りかけをする時間的余裕がない。(3)調理師が離乳食の調理を行っている場合、幼児食の調理に時間をとられ、乳児の喫食状態も観察出来なくなっているなどである。

保育園で離乳をすすめる際、保母のみが離乳に関わるのではなく、乳児の状態について、保母、調理師、母親との連絡もめん密にとりながる、進めていくことが重要であると思われた。又乳児に対して、個別対応による離乳が行われることが望ましいので、今後の努力が望まれる。